

(配布先)
支店長・副支店長
施工担当部署長、建設所長
副部長・副所長・統括工事長
安全長・安全主任
工事長・工事主任
関西支店取引業者災害防止協議会

事務連絡 (安-2025-20)
令和7年6月17日

関西支店 安全環境部長

「事故・災害 自分ごと化プロジェクト」の推進状況調査について (依頼)

「事故・災害 自分ごと化プロジェクト」の推進については、令和6年11月18日付事務連絡(2024-35)＜別紙1＞にて要請していますが、その推進状況を把握するため、全国安全週間に合わせて第2回推進状況調査を下記の要領で実施しますので、回答をお願いします。

なお、forms アンケートの使用が困難である場合は、個別に安全部・高杉宛に回答をメールでお送りください。

今回、関西支店にて災害事象を10件添付しております。「事故・災害 自分ごと化プロジェクト」を更に実のあるものにしてください。

記

1. 調査方法 Forms によるアンケート (計10問、所要約5分)
 ＜別紙2＞参照
2. アクセス URL (<https://forms.office.com/r/d93TyRyd71>)
 または、QRコード → 
3. 回答期限 令和7年7月7日 (月)
4. 問合せ先 安全部・高杉 (内線: 910-282670-8225)
 (メール: k-takasugi0414@shimz.co.jp)

※この事務連絡は、事務連絡 (安環安) 25-14 (令和7年6月12日) 安全環境本部発行に基づき作成しました。

以 上

<別紙 1>

(配布先)
支店長・副支店長
施工担当部署長・建設所長
副部長・副所長・統括工事長
安全長・安全主任
工事長・工事主任
関西支店取引業者災害防止協議会

事務連絡(2024-35)
令和 6 年 11 月 18 日

関西支店 安全環境部長

「事故・災害 自分ごと化プロジェクト」の推進について（要請）

令和 6 年度 全社安全衛生計画の重点施策に定める「ゼロ災を達成するための行動規範」として、“全員が当事者意識を持ち「自分と仲間の生命と心身の健康を守る」という信念で、「ダブルセーフティ」を基本に、円滑なコミュニケーションのもと、PDCAをしっかりと回す”を掲げています。

しかしながら、災害の多発に歯止めが掛からない状況が続いており、このような状況から脱却するには作業員一人ひとりの危険感受性の向上が欠かせません。

つきましては、当社で発生した事故・災害を自分にも起こりうることと認識し、作業員自らが再発防止策を考える「事故・災害 自分ごと化プロジェクト」を下記の要領で推進してください。

また、本活動の定着を図るため、作業所では「積極的な取り組みをしている取引業者」、部門では「優良な作業所」の表彰等について検討するよう要請します。

記

1. 実施事項：事故・災害発生状況を示した資料をもとに、作業グループごとに意見交換を実施した上で、作業グループとして同種事故・災害を防止するための行動目標を立案し実践
2. 開催頻度：月 1 回以上（2 回目以降は、取引業者の任意）
[例]安全衛生協議会、事業主パトロール、官庁工事「安全勉強会」などの機会に合わせて実施
3. 開催テーマ：当社の事故・災害から事業主や職長、または作業所長が選定
（参考：当社の災害事例検索↓）
<http://intranet.shimz.co.jp/anzen/under4days/>
4. 現場内掲示：立案した行動目標をデジタルサイネージ等により現場に掲示
5. 添付資料：（資料 1）関西支店活動例
（資料 2）「現場内掲示」の例（原紙データ付）

※この事務連絡は、事務連絡 24-27(令和 6 年 11 月 14 日)安全環境本部発行に基づき作成しました。

以 上

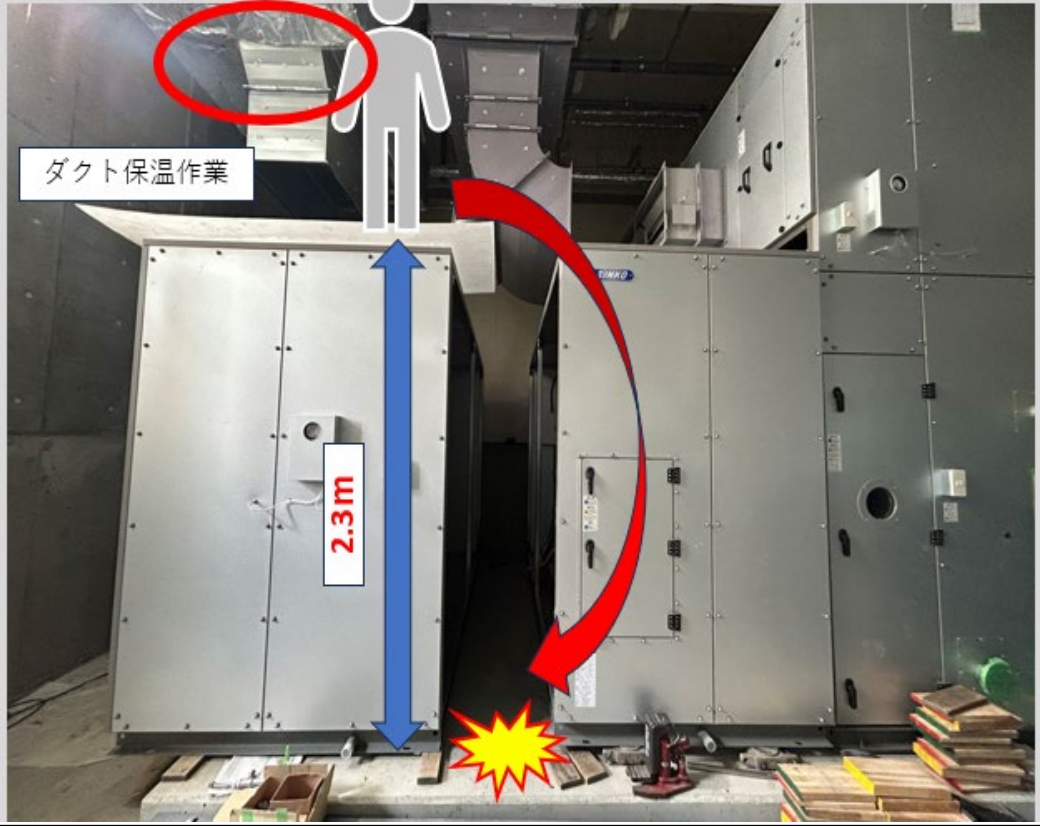
【命を守ろう】災害を自分ごととしてとらえる勉強会資料

No.1

保温工事

2025年4月発生

(墜落)保温工 大型空調機の隙間から墜落

発生状況	【発生状況】
 ダクト保温作業 2.3m	【発生状況】 1 F空調機械室にて、保温工が空調機上のダクト保温作業中、隣の空調機上に移動しようとした際に空調機の隙間(50cm)から墜落。墜落(2.3m)の際、右肩、左太もも、左脇腹負傷。作業中は安全帯を上部の全ネジキャッチャーにかけて使用していたが、移動中のため安全帯は未使用であった。 【原因】 1.手摺を設置せず、全ネジキャッチャーに安全帯をかけるルールとしたが、移動中の安全帯をかけるルールを考えていなかったこともあり、移動中、安全帯をかける設備がなかった。 2.機械組立工が空調機を動かした情報を被災者は持っていたが、空調機の足元の隙間を視認せずに空調機の上を移動をした。 3.電話をしながら歩いていた。

【この災害から、自分たちはこうする！】

【命を守ろう】災害を自分ごととしてとらえる勉強会資料

No.2

防水工事

2024年11月発生

(墜落)ブーム式高所作業車のブームが突然縮んだ衝撃でカゴ外に投げ出され、安全帯で宙づり

発生状況		【発生状況】
 2段部分が 落下し 縮まった 事故発生前作業状況   縮まった時の高車の状況		高所作業車を使用し、高さ12から27m付近でマスキングテープ除去作業中、突然4段ブームの内の上部2段のブームが落下するように順番に縮まり、地下16m付近で作業台が急停止し、その衝撃で作業台外に投げ出され、胴ベルト型安全帯につながった状態で宙づりとなり死亡。 【原因】 1.製造メーカーによる当該シーブ、及びワイヤーロープの推奨交換時期は「5年又は6,000時間」であるが、当該作業車は製造から17年経過していたにも関わらず、一度も交換されていなかった。 2.被災者が操作時に異音(シーブが回転せず擦れることによる音)を確認していたが、そのまま作業した。 3.フルハーネスを使用すべきところ、胴ベルトの安全帯を使用していた。

【この災害から、自分たちはこうする！】

【命を守ろう】災害を自分ごととしてとらえる勉強会資料

(墜落)鉄筋置き場が崩れ落ち、合番者の鉄筋工が墜落（死亡災害）

No.7

揚重工事

2024年7月発生

発生状況



【発生状況】

被災者は、長物鉄筋材料の端部にワイヤーをかけ50cmを持ち上げて端太角を差し込もうとしたときに、ワイヤーから長物鉄筋材料が外れた衝撃で鉄筋置き場が崩れ落ち、スラブデッキを2フロア突き破り、鉄筋置き場にいた合番者の鉄筋工が約9.1m墜落。

【原因】

- ・仮置用架台に過積載となる重量の鉄筋材を置いてしまった。
- ・揚重計画において、クレーンの使用時間、使用業者の調整にとどまり、積載荷重条件や揚重場所 など管理ポイント（計算根拠と現地に相違がないか等）の確認がなされないまま作業を進めてしまった。
- ・現場担当者は、構造計算に基づく積載可能な荷重の表示を現地に行っていなかった。
- ・現場担当者は、デッキプレートを支保工で補強した際、デッキプレート表面に大引とサポート位置を表示しなかった。
- ・繰返し作業により、経験則での判断をし、見直しの判断が出来なかった。安全意識が形骸化していた。（前日から制限荷重を越えて積載をしているスパンがあった）

【この災害から、自分たちはこうする！】

--

【命を守ろう】災害を自分ごととしてとらえる勉強会資料

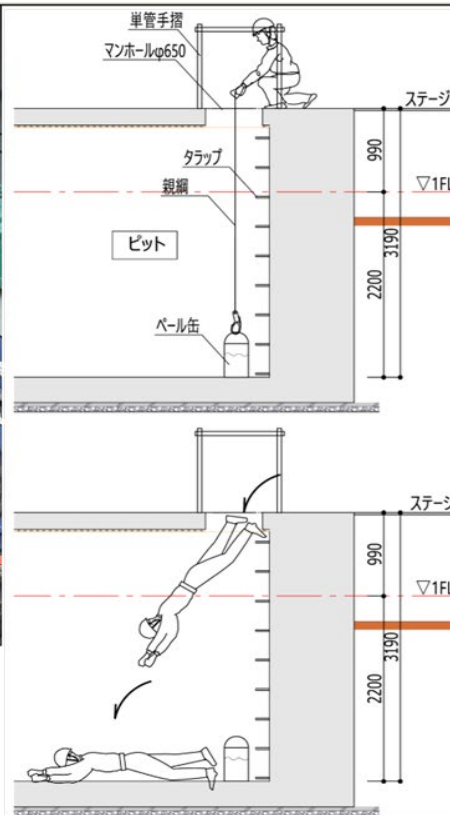
(墜落)クリーニング工がピット開口上部で資材引き上げ作業中に墜落

No.8

クリーニング工

2024年7月発生

発生状況



【発生状況】

クリーニング工が、1階ピット（H3.2m）開口上部にて、安全帯を手摺に掛けずピットに身を乗り出した姿勢で、親綱を使って水の入ったパール缶（15kg程度）を引き上げる作業中、バランスを崩してピット内へ墜落し、右橈骨を骨折。（右橈骨頭骨折、右大腿四頭筋挫傷）（休業見込日数 30 日）

【原因】

- ・ 何度も作業している内容だったため、油断があった。
- ・ 被災者はいつも安全帯を使用して作業を行っていたが、急ぎの作業だったので、安全帯未使用と気付いていたがそのまま作業を行った。
- ・ 手摺の高さの下で、かがんだ状態で作業しており不安定な姿勢であった。
- ・ ピット内への重量物の揚重作業について、清水建設から具体的な作業方法・安全指示が出来ていなかった。

【この災害から、自分たちはこうする！】

【命を守ろう】災害を自分ごととしてとらえる勉強会資料

No.19

仮設工事

2023年2月発生

(墜落)垂直ネット取外し中に、免震基礎から墜落

発生状況	【発生状況】
	外周垂直ネット最下段の隙間を是正する作業中、梁にネットが引っ掛かって外れないため、梁を伝って免震基礎上に降り引っ掛かりを解消しようとした時、足元が滑ったと同時に、水平ネットフックに掛けていた安全帯が外れ、約4.8m 墜落し、左手首、左脛骨を骨折。(左手首(橈骨),左足首(脛骨)の骨折)(休業日数150日) 【原因】 ・ 作業手順にない非定常作業となった際に近道行動をとった ・ 安全帯は使っていたが、ネットフックに掛けていたため、外れてしまった

【この災害から、自分たちはこうする！】

【命を守ろう】災害を自分ごととしてとらえる勉強会資料

(墜落) 1 階居室を清掃中、空いていたマンホールから墜落

No.20

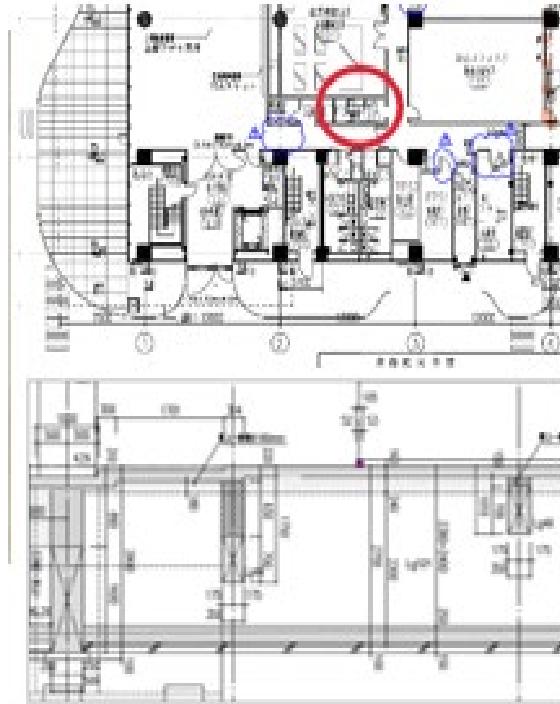
クリーニング工事

2023年 2 月発生

発生状況



墜落した時のマンホールの状況



作業エリア(1階)

【発生状況】

研究施設の 1 階居室内を清掃中に、空いていたマンホールに気付かず、ピット内へ2.4m墜落し、骨盤を骨折。

(骨盤骨折他) (休業日数30日)

【原因】

手すりが元々なく、養生蓋のみで、養生蓋が開いている状態で放置していた。

【この災害から、自分たちはこうする！】

【命を守ろう】災害を自分ごととしてとらえる勉強会資料

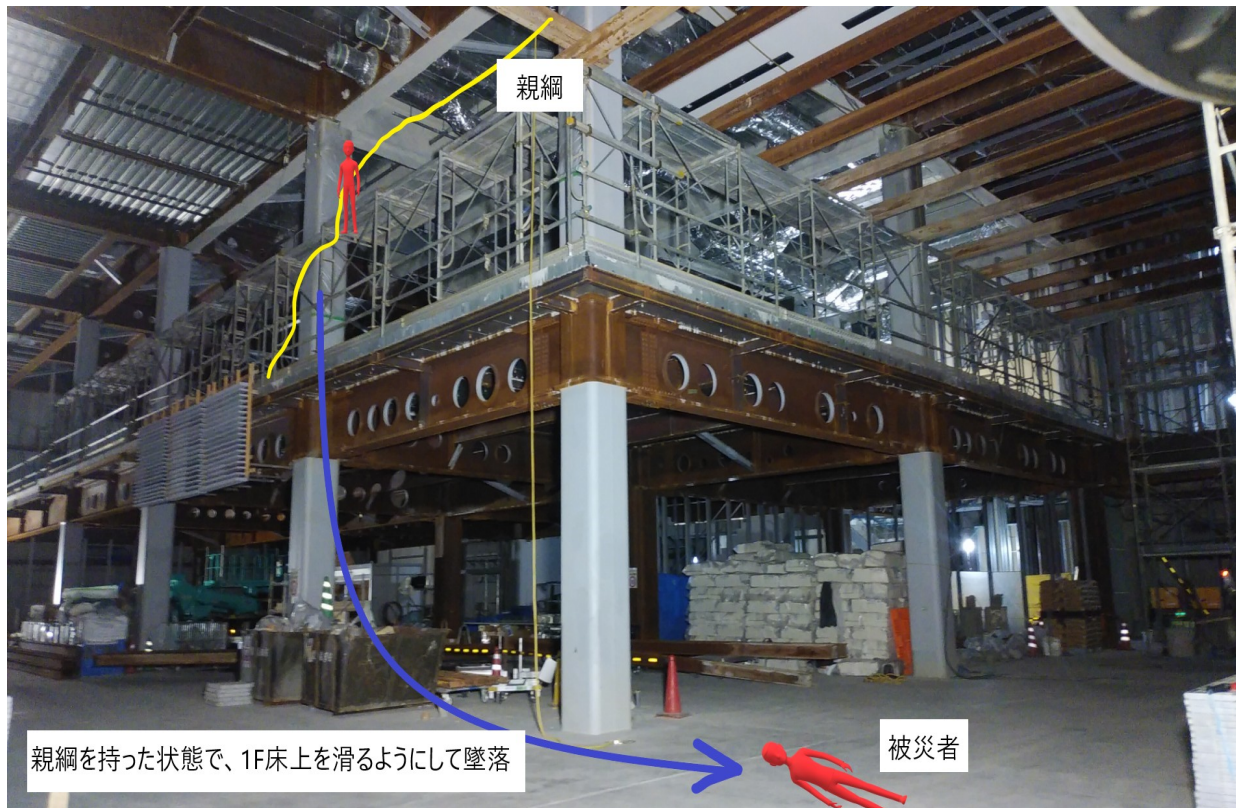
(墜落)棚足場組立中の鳶工がバランスを崩して墜落

No.21

仮設工事

2022年12月発生

発生状況



【発生状況】

1 F 吹抜部の棚足場組立中、安全帯未使用の状態で、棚足場上部の鉄骨梁下に親綱を張ろうとした際にバランスを崩し、親綱を掴んだ状態で1 F 床へ約7 m墜落、頭部を裂傷。
(頭部裂傷、他) (休業日数13日)

【原因】

- ・ 墜落防止設備である親綱を先行設置する作業事体が高所作業の状況下、当該作業の為の墜落防止設備が無かった＝安全帯未使用
- ・ 親綱の先行設置方法が計画されず、職人任せであった
- ・ 被災者の危機意識が低く、何も考えず床端部で作業をしていた

【この災害から、自分たちはこうする！】

【命を守ろう】災害を自分ごととしてとらえる勉強会資料

No.23

屋根工事

2022年12月発生

(墜落)屋根鉄骨上で親綱支柱が外れ墜落

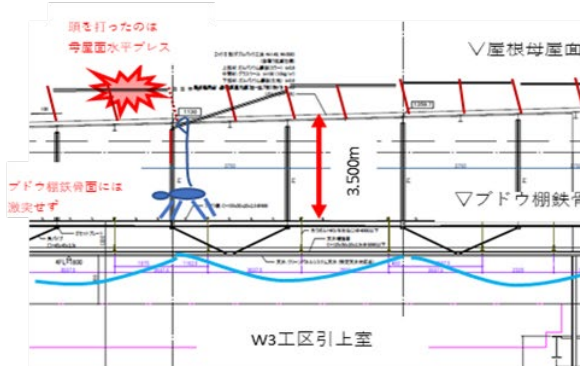
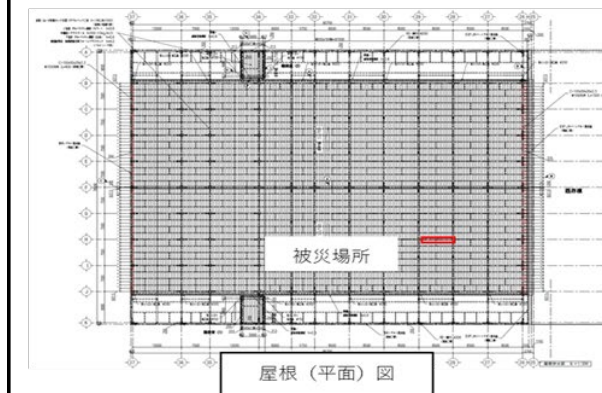
発生状況

【発生状況】

屋根鉄骨梁上でタイトフレームの墨出作業中、たるんでいた親綱を緊張しようと引張ったところ、親綱支柱が鉄骨梁(250×125×6×9)から外れ、支柱と共に墜落した。その際、支柱が鉄骨に引っ掛かったため、宙吊りになり、頭部が水平ブレースに当たり被災した。(急性硬膜外血腫、頭蓋骨骨折)(休業日数30日)

【原因】

- ・ フランジ幅125mmの屋根鉄骨に親綱支柱を取り付けたため、鉄骨との摩擦面に隙間が生じた(しっかりと鉄骨に締め込みが出来なかった)
- ・ 親綱がたるんでいた(先行業者が親綱の緊張の復旧をしなかった)
- ・ 水平ネットはRG梁の直下ではなく、ぶどう棚下部に設置していた(屋根面より3.5m下部)



【この災害から、自分たちはこうする！】

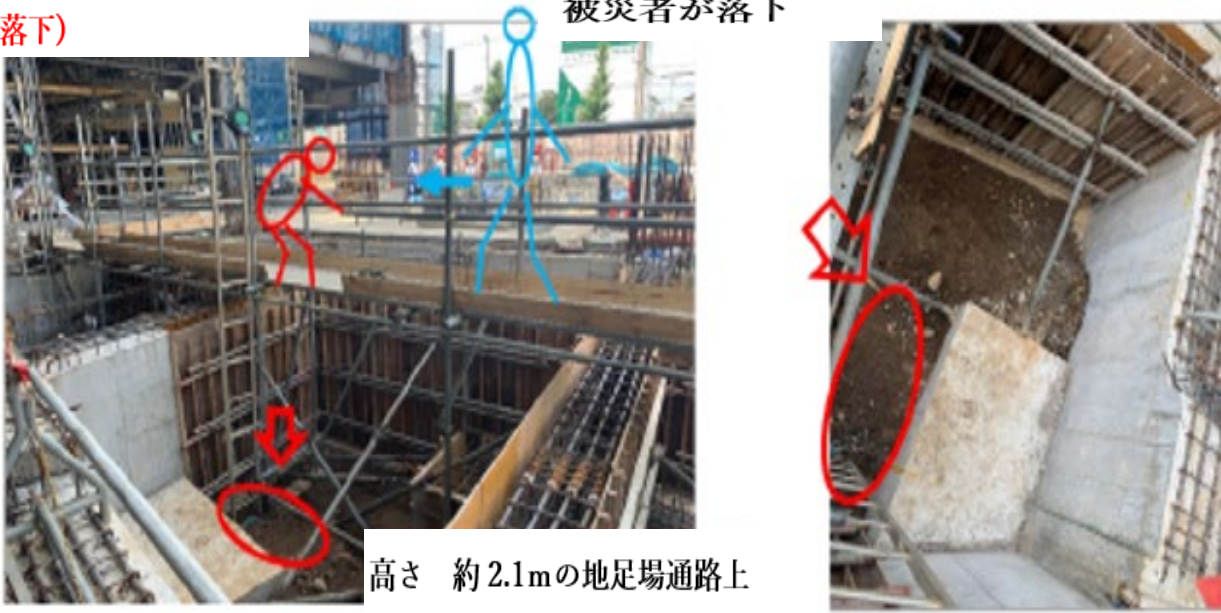
【命を守ろう】災害を自分ごととしてとらえる勉強会資料

No.28

型枠工事

2022年7月発生

(墜落) 基礎型枠組立工事で、型枠大工が地足場通路から墜落

発生状況		【発生状況】
被災者 (中桟につかまりながら 落下) 通行人 通り過ぎてから 被災者が落下  高さ 約2.1mの地足場通路 昇降部分から土の中に墜落		基礎型枠工事中に、高さ約2.1mの地足場通路からハシゴで降りようとしたときに、対面から他の作業員が来たため、慌てて避けようとして、安全ブロックをかける前に足を踏み外して、手すりにつかまりながら土の中に墜落して、右胸等を打撲 【原因】 地上に降りるハシゴを設置した場所について、通路からハシゴへの移動の容易さを優先して、中桟を設置していなかった。 (労働安全衛生規則では、『架設通路』あるいは『作業床』について、墜落の危険のある個所には『中桟等』を設置することが義務付けられている。) 急に避けたので、安全帯を掛けることを忘れていた。

【この災害から、自分たちはこうする！】

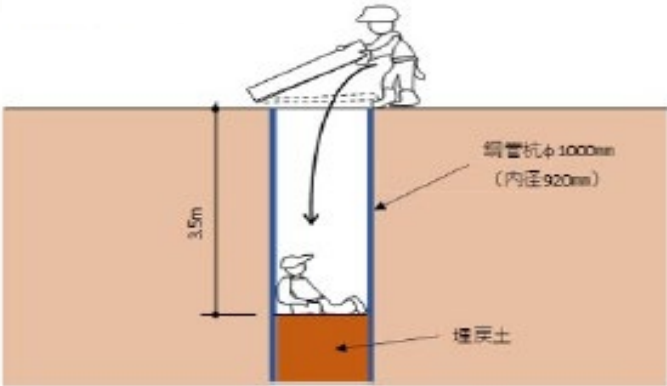
【命を守ろう】災害を自分ごととしてとらえる勉強会資料

No.30

注入工事

2022年6月発生

(墜落)注入工が抗鋼管内に墜落

発生状況	【発生状況】
 仮設蓋設置状況  仮設蓋を外した状況 	注入工が鋼管杭（直径1m、厚さ6mm、養生蓋重さ47kgにて養生）周囲の薬液注入削孔に伴う片付け作業中に、誤って杭穴養生蓋を持ち上げ、一歩踏み出した際に鋼管杭の中に3.5m墜落し骨折。（休業見込日数120日）
	【原因】 ・被災者は杭開口養生蓋を不要な鉄板と勘違いし、片付けるために開けてしまった。当該鉄板が杭開口養生蓋になっており内部が開口になっていることを認識していなかった ・作業班長は「合板」を片付けるように指示したが、被災者は「合板」がベニヤ板であることが認識できず鉄板のことであると勘違いしてしまった。 ・養生蓋の「開口養生蓋」という注意喚起表示も汚れて判別が出来なかった。

【この災害から、自分たちはこうする！】

(第2回)「事故・災害 自分ごと化プロジェクト」 ～実施状況調査～



<別紙2>

* 必須

基本情報

1. アンケート記入日 *

日付を入力してください(yyyy/MM/dd)



2. 部門名 *

答えの選択



3. 部門 *

☐ 建築

☐ 土木

☐ その他

4. 作業所名 *

回答を入力してください

実施状況について

5. 作業グループごとに意見交換を実施し、同種事故・災害を防止するための行動目標が立案できましたか？ *

☐ 意見交換・立案ができた

☐ 近日実施する予定

☐ 未実施及び未定

6. どのようなテーマで実施されましたか？

回答を入力してください

7. 月に何回実施しましたか？ *

☐ 1回

☐ 2回以上

8. どのような機会に合わせて実施しましたか？ *

☐ 安全衛生協議会

☐ 事業主パトロール

☐ 官庁工事「安全勉強会」

☐ その他

9. 立案した行動目標を現場に掲示されましたか？（デジタルサイネージ等） *

☐ 掲示した

☐ していない

10. その他、独自に実施した取り組みなどがあればご記入ください

回答を入力してください

戻る

送信